# 明治村だより

*1996 Summer*

夏号

Vol.4

平成八年七月十五日発行（季刊）
明治村だより　第四号

## 宵の明治村

## 夏の明治村

### 写生大会

愛知県知事賞
小学2年　原祐一郎

犬山市長賞
小学4年　平井大温

岐阜県教育委員会賞
中学3年　箱崎五月

目次

第22回明治村賞
坂本勝比古氏に贈呈 ・・・・・・・・ 2
居留地・異人館・開港都市 ・・・ 坂本勝比古 3
建物内部公開 神戸山手西洋人住居 ・・・・・ 8
長崎居留地二十五番館 ・・・・・・・・ 9
明治村と洋風家具 ・・・・・・・・ 11
夏の明治村 ・・・・・・・・・・・ 14

〈表紙写真・木股邦泰　聖ザビエル天主堂〉

『明治村だより』
第五号（平成八年秋）発行のお知らせ

発行時期　本年十月（予定）
申込方法　『明治村だより』第五号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料一九〇円分の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

平成八年七月十五日発行
『明治村だより』　第四号（平成八年夏）
発行　博物館明治村
愛知県犬山市大字内山一番地
電話（〇五六八）六七－〇三一四　〒四八四
東京事務所
東京都千代田区紀尾井町三－二三
文藝春秋ビル新館七階
電話（〇三）三二六三－五五六六　〒一〇二
製作　求龍堂

# 第22回明治村賞
# 坂本勝比古氏に贈呈

明治村では、明治時代を主題とする学術や芸術に功績のあった人を毎年一人選考し、明治村賞を贈っていますが、本年の受賞者は、居留地異人館を始めとする日本近代建築の歴史研究と保存に大きな業績をあげられた坂本勝比古氏（神戸芸術工科大学教授）に決定、六月十八日、東京会館で贈呈式が行われました。

工学博士、坂本勝比古氏は、戦後間もない神戸市役所在勤中から、神戸居留地とその異人館群の形成過程と復原的研究で、日本近代建築史研究に先駆的な業績をあげられ、旧ハッサム住宅や旧ハンター住宅、居留地十五番館など数棟の異人館や、北野・山本地区の町並みの保存と重要文化財の指定に大きな貢献をされました。またこの間に在ローマの文化財保存国際センターに留学して、国際的視野の下での文化財保存への理念と技術を習得されました。

昭和五十五年から千葉大学工学部教授になられ、さらに現在の神戸芸術工科大学教授として、全国にわたる日本近代建築の調査・研究と教育に幅広い成果をあげ、家具や室内デザインの歴史にまで、その分野を拡大されています。

また『神戸の異人館―居留地建築と木造洋館』（昭和三十七年、神戸市文化財調査報告書）を始めとする学術論文・著書も多く、日本の近代建築の評価と保存および明治文化に対する市民の関心を喚起するに大きな業績をあげられました。

なお、博物館明治村にある大井牛肉店、神戸山手西洋人住居および旧神戸外国人居留地瓦斯燈二基の移築・保存にも力を尽されたことは、私どもの感謝に耐えぬところです。

阪神大震災では自らも被災されたにもかかわらず、率先して同地方の歴史的文化遺産の被災状況の調査と復旧に努力しておられます。

今回の受賞を記念して、坂本氏から本誌に「居留地・異人館・開港都市」のご寄稿をいただきましたので、次に掲載します。

明治村賞を贈呈される坂本氏（左）

旧ハンター住宅

# 長崎居留地二十五番館

9月21日から主要室内を再現・公開

## 長崎居留地

長崎は一八五八(安政五)年の安政条約といわれるアメリカ・オランダ・ロシア・イギリス・フランスとの間に締結された修好通商条約により、横浜・函館とともに最初の開港場となった。約三百年にわたる長い鎖国の間、外国(オランダ・中国)に対する唯一の窓口であったこともあり、開港当初は、欧米の商社が日本に支店を開設する最初の拠点としてにぎわいをみせた。

各開港場には外国人が居住するための居留地が設けられたが、そのありようは都市それぞれで異なり、たとえば函館では居留地とは名ばかりで実際には存在しなかったし、神戸では外国人の増加後も居留地はそのままで、雑居地(日本人と外国人が雑居)という地域を拡大していった。長崎では江戸時代からの「出島」地区の他に、居留者の増加に伴い、大浦(東山手)地区・浪之平(なみのひら)(南山手)地区へと居留地を拡大していった。

# 神戸山手西洋人住居

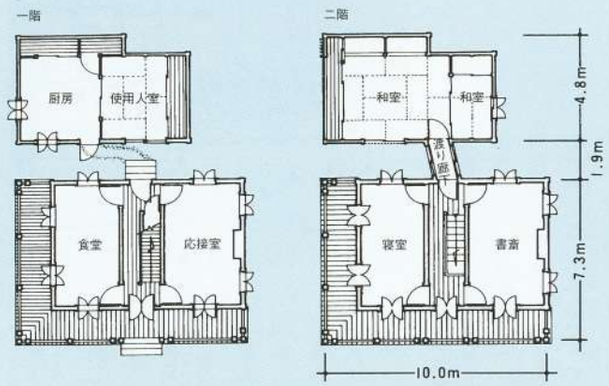
明治20年代

わが国の歴史的開港場には、必ず外人居留地跡があり、居留地はきまって海を見下す見晴らしのよい、高台をしめている。大貿易港として、国際都市を誇る神戸には、明治時代から外人居住者が多く、外人を福の神とする商人などは、番号つきの外国商館を「何番様」、その住宅を「御屋敷」、と呼んだという。そういう神戸の「西洋人住居」は、現在生田区の山手方面に多く集まっていた。

この西洋館も昭和41年まで生田区山本通四丁目にあった一軒で、建築は明治20年代というだけで、はっきりした記録がないが、明治29年には増田周助という日本人の所有になっていたことは明らかである。その後所有者も幾度か変わり、昭和元年からは、フランス人貿易商フェルナン・ブルムという人が住んでいた。

主屋に付属室を組合わせたこの家の構成は明治中期の典型的な神戸西洋人住宅とされている。長崎居留地二十五番館と比べるとき、同じ西洋人住居でも神戸では、その様式や感覚が明らかに違っている。

主屋は上下階とも中央に廊下を通し、左右に洋室を配している。付属室一階には使用人がいたが、ほかのどの階とも結ばれておらず、主人家族のプライバシーの枠外とされていた。そのため、付属室の二階部分は渡り廊下で直接に主屋と結ばれている。




**建物内部公開**

| | | |
|---|---|---|
| ◎シアトル日系福音教会 | 7月の土・日・祝日 | 10時～15時 |
| ◎神戸山手西洋人住居 | 8月の土・日曜日 | 10時～15時 |
| ◎高田小熊写真館 | 9月の土・日・祝日 | 10時～15時 |

高田小熊写真館

しかし東京から遠距離にあるという地理的条件から貿易港としての重要性は横浜などへ移り、明治三十二(一八九九)年の居留地制度の廃止などもあって、当初居住していた西欧人は明治二十年代後半から次第に減り、替わって一九〇五(明治三十八)年のロシア革命を境に亡命してきたロシア人が居留地の中心となっていった。

## 長崎居留地二十五番館の建築

長崎居留地二十五番館は棟札によれば主棟が明治二十二年、別棟は明治四十二年の建築である。主棟・別棟の外観はよく似ており、居留地建築に多い以下の特徴的な要素も含んでいるが、別棟はより和風に作られ、和室も設けられている。

①軒の深いヴェランダ

軒の深いヴェランダは、緯度の高いヨーロッパでは使用されず、インド・ベトナム・インドネシアなど欧米諸国の植民地でよく用いられた。強い太陽の光が直接室内に入り込まないようにする工夫のひとつ。

②レンガ積みの暖炉と煙突

温暖な気候の土地に、暖炉があるのは不思議な気もするが、暖炉は欧米の家庭においてはなくてはならないものであった。長崎においては装飾という要素が強く、暖炉の天板には写真や装飾品が飾られていた。

③建物の形は矩形が基本で三方にヴェランダ

居留地図からわかるとおり、矩形の建物が多く、どの建物にも木製のヴェランダが張り巡らされている。

④外壁は下地板の下見板貼り

下見板貼りは、ヨーロッパでは格の低い建物とみなされていたが、アメリカに渡ったピューリタンたちの建築では多く用いられた。

## 長崎居留地二十五番館に住んだ人々

明治二十二年の建設時に住んだのは、コルダーJ.F.Colderである。コルダーはスコットランド出身で、明治二年に長崎に来て、その後横浜・大阪でいずれも造船に関わる技師として働いていた。特に、大阪ではハンターE.H.HUNTERとともに大阪鉄工所(後の日立造船)の支配人として明治十六年日本で初めて乾ドックを完成させるという大事業を成し遂げた。明治十八年に再び長崎に戻り、長崎造船所(後の三菱重工業長崎造船所)の支配人となり、明治二十二年からこの二十五番館に居を構えたが、この家に住んだのはわずか三年程でガンのため四十五才という若さで死去した。

コルダーの死後、アメリカ人商人・ロシア艦隊のマネージャー・香港上海銀行長崎支店長などが住んだといわれるが、今のところ確たる資料がみつかっていない。

# 明治村と洋風家具

◆ 特別企画「甦る明治の空間」(仮称)
ーみて、ふれて、つかって知る住まいとくらし
9月21日から開催
●明治宮殿、赤坂離宮、鹿鳴館ほかの家具の展示(11月24日まで)
●西郷従道邸、帝国ホテル中央玄関、三重県庁舎ほか室内の再現
●西郷従道邸内ティールーム開設(11月24日まで)

❶ 武田五一デザイン　椅子

現在家具といえば私達が家庭や職場などあらゆる室内空間で日常的に使っている椅子やテーブルなどを考えますが、これらはいわば洋風家具と称されるものでそのほとんどが明治以降にわが国に取り入れられ普及したものです。従ってわが国においては洋風家具そのものの歴史は比較的浅いといってよいでしょう。

そもそも家具はその容れ物である建物及び居住空間と密接な関係があり、建築様式の変遷に伴って家具のスタイルもいろいろに変化してきました。

日本の建物は高温多湿という気候風土によって大きく左右され、風通しの良いより快適な空間を維持するために様々な工夫がなされてきました。従って空間を塞ぐ家具や室内装飾についてはあまり積極的に受け入れられていない状況でした。

また家具類を使用するということは一種の富の象徴でもあったわけで、たとえば箪笥に容れる物を所有しているか否かでその生活水準の程度がわかります。

従って古代より一部の特権階級の住まいにはある程度の調度が備えられていたと考えられます。例えば身の回りの品を容れる収納箱、棚、寝具、衝立、沐浴用品、食卓膳など様々な用途に使われるものはありますが、その場に応じた道具といったもので、家具としてはまだ発展途上の段階でした。

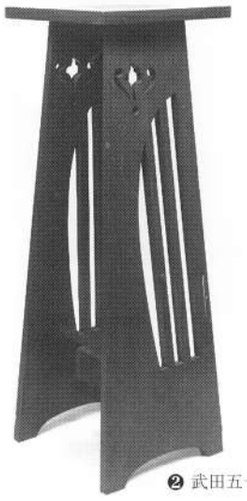
その後大陸文化からの影響を徐々にとり入れながら、これらの調度は伝統的和家具として引き続き伝えられてきました。

外国文化が急激に流れ込んだ幕末期から明治時代になると、西洋式の建物と家具が日本の住まい方を徐々に変えてきました。まず居留地における外国人の生活様式がその端緒となりました。彼らは日本に住むにあたり自国の生活様式を変えることなく家具なども外国から取り寄せたりまたは同じ物を日本の職人に作らせたりしました。

これが契機となって方々の居留地界隈で西洋家具をつくる試みがなされ家具商人も出現しました。

明治新政府が確立してから積極的に欧化政策をとり建築をはじめあらゆる文物・制度の洋風化をはかりました。建築が洋風に変わるとそれにあわせて内部の装飾や家具も西洋風に統一する方向づけを行い、ここに洋風家具の流れが始まりました。

明治の洋風家具は高級な宮廷家具とその他の一般家具に大別されます。


❷ 武田五一デザイン　花置台

宮廷家具のひとつはフランスやイギリスからの直輸入品で金箔や絹地を多用した重厚で豪華なものです。当時の西洋家具はフランスのルイ十五世・十六世様式、イギリスのジャコビアン・チッペンデール様式などが主流を占めていました。もう一方では外国製品を模して当時の技術の粋を集めて製作された国産の和洋折衷様式で伝統的な蒔絵技法を施した優雅な家具があります。明治二十一年に完成した明治宮殿のインテリアはフランスのヴェルサイユ宮殿をそっくりそのまま模倣してつくられ、各部屋に備えられた家具も多くはドイツから輸入したものですべてバロック様式でした。

政府の高官の邸宅にも宮廷家具と同様のものが備え付けられ富と権力を象徴する一種のステータスシンボルとなったのです。

明治村で所蔵している資料に明治宮殿・鹿鳴館・旧赤坂離宮で使われていた家具什器類があります。いずれも輸入品及び和洋折衷様式の蒔絵を施された家具で、飾台、テーブル、椅子、ソファ、食器棚、化粧台、燭台など多くの種類があります。

宮廷家具以外の一般家具もやはり庶民の家ではなく役所や学校など公の場所に置かれました。ほとんど国産でまかなっていたようで装飾的な宮廷家具と違ってこれらは実際に使用されていたので過度の装飾は少なく実用的なものが多かったと思われます。

こうした需要に応じて一部の高級品以外の家具製作も盛んとなり明治から大正にかけて量産化され、百貨店でも家具の売場が常設されるようになりました。

一般の人々が家具というものを身近に感じるようになるのは大正時代以降からで、この時期文化住宅と呼ばれる中流階級向けの家がつくられるようになりました。これはいわば和洋折衷の住まいで従来の畳の部屋とこじんまりとした洋室を併せ持ち、これに合わせて洋風を加味した家具がいろいろと工夫されて作られるようになりました。

この頃になると海外でアールヌーヴォー様式やセセッションという新しい芸術運動が流行し、その影響を受けて工芸分野でも新しいスタイルの家具がデザインされて日本にもとり入れられ、ホテルの調度や一般の家庭にも浸透しました。

明治村が所蔵する資料の中に帝国ホテルで使用されたフランク・ロイド・ライトのデザインによる椅子や西宮の芝川邸で使われた武田五一のデザインによる家具などがありますが、これらも新しい様式による近代家具のひとつです。

その後生産面で機械化が急激に進んだ結果、一般向けの廉価な家具が普及する時代を迎えます。

公私ともに生活様式の全てが洋風化するということはわが国では定着せず、明治はおろか現在に至るまでほとんどの日本人はひとたび外出先から帰ると家庭の中では依然旧来の畳の上で生活するかたちを捨ててはいません。こうしてわが国の居住空間は根本的には伝統的様式をふまえつつ、自分の生活にあわせて様々な家具を工夫して取り入れてきたといってよいかと思います。

❸

❹

❺

❻

❼

❽

❾

❿

❸ フランク・ロイド・ライト デザイン 椅子　❹ 赤坂離宮 小椅子　❺ 赤坂離宮 椅子　❻ 鹿鳴館 椅子　❼ 鹿鳴館 椅子
❽ 赤坂離宮 花置台　❾ 赤坂離宮 椅子　❿ 赤坂離宮 飾台

# 夏の明治村

＊都合により変更する場合がありますので詳細については事前にお問い合わせください。

## 宵の明治村

8月10日(土)～18日(日)

開村時間を延長し、夜の明治村をお楽しみいただく恒例の「宵の明治村」、今回はさらに内容をグレードアップさせました。

主要建物のライトアップを増強、イルミネーションやガス灯が美しく輝く中、レンガ通り周辺の第一会場は懐かしい和風の雰囲気で、帝国ホテル中央玄関周辺の第二会場はひと味違った洋風の雰囲気で涼をお取りいただけるよう工夫をこらしています。

軒を並べる夜店や屋台は、矢場や射的、のぞきからくり、金魚すくいなどに加え、おしゃれな西洋料理が味わえる屋台なども新たに登場、西郷従道邸内のティールームでは明治のアイスクリームも楽しめます。

イベントも盆踊りを連日開催するほか、野外コンサートやロマンチックなキャンドルサービス、灯籠流しなど、盛りだくさんに用意しています。

期間内の開村時間

10日(土)～15日(木)　21時まで延長

16日(金)～18日(日)　20時まで延長

期間内16時以降の割引入場料金

大人・大学生　一、〇〇〇円

高校生　八〇〇円

小・中学生　五〇〇円

※浴衣姿の女性は無料

## 子供夏期大学（有料）

7月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)

いずれも午前・午後2回開講

昨年までに人気の高かった乗り物コース・食文化コースを開講。要予約(定員になり次第締め切ります。詳しくは明治村までお問い合わせください)

## 写生大会入賞作品展

9月1日(日)まで　三重県庁舎2階

5月19日から6月2日に行った写生大会に参加した小・中学生の作品のうち、入賞作品を展示します。

## 写真コンテスト入賞作品展

8月1日(木)～11月30日(土)

(東山梨郡役所2階)

明治村の四季折々の景観をとらえた入賞作品を展示します。

## クイズラリー（有料）

第2・4土曜、毎日曜・祝日

7月20日～8月31日は毎日

明治村に関するクイズを解きながら、村内をまわります。



## 夏期染色教室（有料）

7月27日(土)、

8月3日(土)、17日(土)、

9月14日(土)、28日(土)

千早赤阪小学校講堂

7月、9月は村内に自生している樹木から採取した染料、8月は藍を用いて染めます。上級はショールかTシャツ、中級は毛糸、初級はハンカチを染めます。中級・上級コースは1週間前までに往復はがきでお申し込みください。初級コースは当日その場でご参加いただけます。(詳しくは明治村までお問い合わせください)

夏期染色教室

## 機織り実演

毎週日曜日　鉄道寮新橋工場・機械館

明治時代の機を使って、布を織ります。

機織り実演

## 秋の明治村（予定）

前田守一「明治はるあき」による木版画展

9月1日～12月1日

写真展「近代土木遺産を訪ねて」

9月15日～10月14日

明治村秋まつり

11月2日～4日

大道芸の実演

11月2～4、9、10、17、23、24日

オータムコンサート

11月3、4、10、24日

染色教室

9、10、11月の第2・4土曜日

呈茶

10、11月の日曜、祝日

人力車体験乗車

9、10、11月の日曜、祝日

クイズラリー

9、10、11月の第2・4土曜日、日曜、祝日

前田守一「明治はるあき」―お花―